

# 〈症 例 報 告〉 転移性口蓋扁桃腫瘍の1例

京都第一赤十字病院 耳鼻咽喉科

秋山 優子, 八木 正人, 村上 匡孝, 安田 範夫

京都府立医科大学 耳鼻咽喉科

久 育男

Tonsillar Metastasis from Small Cell Lung Carcinoma

—Report of a Case—

Yuko Akiyama, Masato Yagi, Masataka Murakami, Norio Yasuda

Department of Otolaryngology, Kyoto First Red Cross Hospital

Yasuo Hisa\*

\*Kyoto Prefectural University of Medicine

Key words :

tonsillar tumor, metastasis, small cell carcinoma

Abstract

Tonsillar Metastasis from Small Cell Lung Carcinoma : Report of a Case

Yuko Akiyama, MD, et al :

Department of Otolaryngology,

Kyoto 1st Red Cross Hospital, Kyoto.

A 70-year old man, treated for small cell lung carcinoma, was admitted to our department with a sore throat. A tumor was found in the right palatine tonsil and an enlarged cervical lymph node was palpable.

A diagnosis was metastatic tonsillar tumor as the pathological findings corresponded with that of the primary tumor of the lung.

<sup>60</sup>Co radiotherapy (30Gy) reduced the size of the tumor. There were no clinical symptoms for ten months until he died.

The clinical findings of tonsillar metastasis from lung cancer reported in Japan are reviewed in this paper.

はじめに

口蓋扁桃に発生する悪性腫瘍は、そのほとんどが原発性であり、転移性扁桃腫瘍は極めて稀である。今回我々は、肺小細胞癌より口蓋扁桃に転移した一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：70歳，男性

主訴：咽頭痛

既往歴：特記すべきことなし。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：1992年9月頃から咳、血痰、嘔声が出現し他院耳鼻咽喉科を受診。胸部単純X線撮影にて異常陰影を指摘され肺癌による左反回神経麻痺を疑われ（図1）、10月6日当院呼吸器科を紹介され受診した。胸部CT（図2）および気管支鏡による細胞診の結果から肺小細胞癌（T4N2MO, stageIIIb）と診断され、11月12日よりCAV-PVP療法が、途中45Gyの放射線療法をはさみ2クール施行された。以後外来にてVP16間欠投与が行われたが、1993年11月頭部CTにて脳転移が認められ50Gyの全脳照射が施行された。1994年2月頃より咽頭痛が出現し、3月22日当科を初診した。

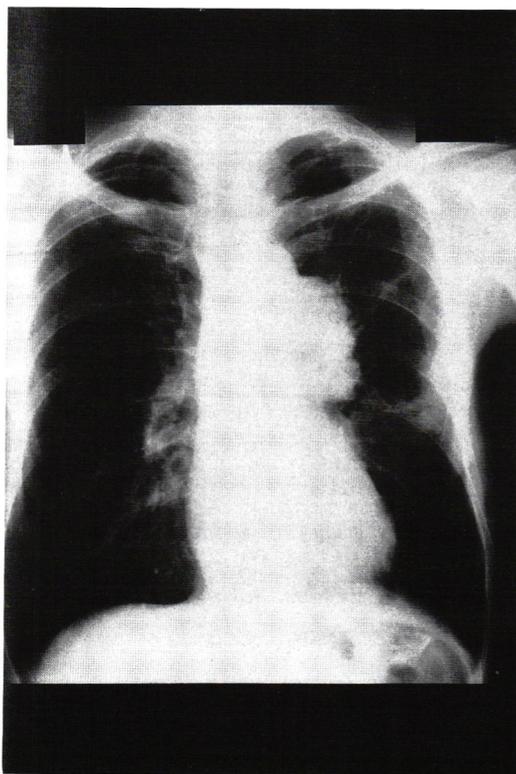


図1. 胸部単純X線像  
左上肺野に直径3cmの腫瘍陰影および縦隔リンパ節の腫脹が認められた。



図2. 胸部CT像  
左上肺野に原発巣と思われる腫瘍陰影がみられ、左肺門部から縦隔にかけてリンパ節腫脹が認められた。

初診時所見：右口蓋扁桃は腫大し表面不整で、一部潰瘍を形成し、白苔を認めた。咽頭所見では、左反回神経麻痺を呈していた。また、右頸部に直径3cmのリンパ節腫脹を触知した。

血液生化学的検査：血中NSE値が29ng/ml（10以下正常）と軽度上昇がみられた以外には特記すべきことはなかった。

頸部CT所見：右口蓋扁桃に一致して表面不整な腫瘍および右頸部リンパ節腫脹を認めた（図3）。

病理組織学的所見：右口蓋扁桃の生検および頸部リンパ節の穿刺吸引細胞診を施行した所、小型で多型性を有する腫瘍細胞が認められ、肺小細胞癌の所見と一致した（図4）。口蓋扁桃組織の免疫組織化学染色においては、NSEのみ軽度陽性、UCHL-1、LCA、L26は陰性であった。

経過：以上の結果より原発性肺小細胞癌の右口蓋扁桃転移および右頸部リンパ節転移と診断した。この時点におい



図3. 頸部CT像  
右口蓋扁桃に一致して表面不整な腫瘍および右頸部リンパ節腫脹を認めた。

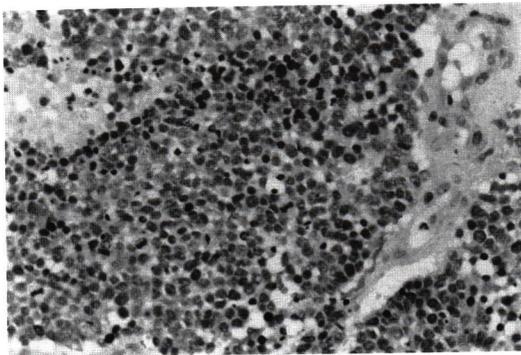


図4. 病理組織  
小型で多型性を有する腫瘍細胞がみられ、肺小細胞癌の所見と一致した。

て肺原発巣がPR、脳転移巣がNCであり、いずれもCRに  
いたらず腫瘍が残存していた。よって、患者のQOLを考  
慮し、疼痛除去を第一の目的として放射線療法を選択し、  
右口蓋扁桃及び右頸部に計30Gyの放射線照射を施行した。

扁桃ならびに頸部リンパ節に存在した腫瘍は視診上全く  
消失し疼痛もなく、照射終了後10カ月再発所見を認めなかつ  
たが、1995年1月死亡した。

### 考 察

原発性肺小細胞癌の口蓋扁桃転移は極めて稀であり、本  
邦では1956年の齊藤らの報告以来自験例を含めて7例の報  
告をみるにすぎない<sup>1) 9)</sup>。悪性扁桃腫瘍は頭頸部癌の約10  
%を占めているが<sup>7)</sup>、Crawford等<sup>8)</sup>は1,547例の扁桃腫瘍を  
集計し転移性と考えられるものはその内12例にすぎないと  
している。

Monforte等<sup>9)</sup>は転移性口蓋扁桃腫瘍89例を検討し原発腫  
瘍は悪性黒色腫、腎細胞癌、肺癌が多いとしている。悪性  
腫瘍が口蓋扁桃に転移しにくい理由としては明白ではない  
が、Draizin等<sup>10)</sup>は、口蓋扁桃には輸入リンパ管が存在し  
ないためリンパ行性転移が好まれないとしており、また  
船井等<sup>11)</sup>は扁桃は免疫機能を有する網内系の細胞が主体を  
なしているため腫瘍細胞の排除能が強いている。Bro  
wnson等<sup>12)</sup>によれば扁桃転移例の77%が他臓器にも転移巣  
を有し、扁桃転移は腫瘍増殖が扁桃の腫瘍排除能を越えて  
おこると考えられる。我々の症例でも多臓器転移をみるst  
age IVであり免疫能の低下が示唆される。転移性扁桃腫瘍  
に対する治療は、扁桃および顎下腺摘出、頸部郭清術が施  
行された例も報告されているが、主には化学療法による全  
身治療、放射線療法による局所療法、および口腔内への出  
血、咽頭反射、呼吸困難に対して対症的には手術的治療が  
行われている。肺小細胞癌はWarren等<sup>13)</sup>によると、stage  
I, IIでは肺原発巣の外科的切除および化学療法による治  
療が勧められているが、早期より全身に広く播種され多発  
性に転移をきたす予後不良な癌腫である。本症例でも、多  
臓器転移が認められ原発巣とともに腫瘍が残存しており予  
後不良と考えられ、患者のQOLを考慮し、放射線療法に  
よる保存的治療を試み、扁桃および頸部リンパ節転移巣に  
対しては良好な経過を得ることができた。

### ま と め

今回我々は、右口蓋扁桃に転移した肺小細胞癌の1例を

経験し、放射線療法による良好な経過を得たので報告した。

### 文 献

- 1) 齊藤英雄・他：両側口蓋扁桃に転移を見た肺癌症例. 日気食会報7:42-81, 1961.
- 2) 宮原 裕・他：頭頸部領域への転移癌. 日耳鼻86:951-957, 1983.

- 3) 周 明仁・他：転移性口蓋扁桃腫瘍の2例. 日扁桃誌24：105-112, 1985.
- 4) 森 茂樹・他：肺癌による転移性口蓋扁桃腫瘍の1例. 耳鼻臨床80：1261-1265, 1988.
- 5) 後藤達也・他：両側口蓋扁桃に転移をみた大細胞型肺癌症例. 耳鼻咽喉62(8)：685-688, 1990.
- 6) 松島伸治・他：口蓋扁桃に転移を来した肺小細胞癌の1例. 日呼外会誌7(5)：608-612, 1993.
- 7) Sabiston DC Jr : Textbook of surgery. W. B. Saunders Company, Philadelphia, p1202, 1991.
- 8) Crawford BE, et al : Oral pathology. Otolaryngol Clin North Am 12 : 29-43, 1979.
- 9) Monforte R, et al : Bronchial adenocarcinoma presenting as a lingual tonsillar metastasis. Chest 92: 1122-1123, 1987.
- 10) Draizin D, et al : Bilateral metastatic tonsillar disease due to renal cell carcinoma. Ear, Nose Throat J 57 : 14-18, 1978.
- 11) 船井洋光・他：転移性扁桃腫瘍の1例. 耳喉53 : 421-423, 1981.
- 12) Brownson RJ, et al : Hypernephroma metastatic to the palatine tonsils. Ann Otol Rhinol Laryngol 88 : 235-240, 1979.
- 13) Warren WH, et al : Neuroendocrine neoplasms of the lung. A clinicopathologic update. J Thoracic Cardiovasc Surg 98 : 321-322, 1989.

受付 平成7年6月30日